

平成 18 年度技術士第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンス

平成 18 年度技術士第一次試験の合格者数は約 9,700 人であった。今回は、合格者だけでなく JABEE 修了生（見込者）も対象にして今後の修習にあたっての研修を行い、進路のガイダンスに資するための技術士第一次試験合格者歓迎ガイダンス（13：00～19：15）が平成 19 年 1 月 27 日（土）渋谷フォーラムエイトにて開催された。第 1 部のオリエンテーション及び第 2 部のパネルディスカッション（13：00～16：40）に第一次試験合格者約 160 名が参集し、交流会（17：15～19：15）では部会等関係者 60 名の参加を得て、先輩技術士との交流が活発に行われた。

【開会挨拶】

修習技術者支援実行委員会 吉川 博晴

第一部のガイダンスは、技術士を目指して修習をどのようにしていくかという観点で企画した。そして、第二部の交流会を、人脈・ネットワークの形成に役立ててもらいたい。同じフロアで、技術士会の活動を紹介するパネル展示を行っているので、是非そちらも見学してもらいたい。

1. 【講演】祝辞と期待のことは

(社)日本技術士会副会長 永田 一良

【要旨】

都丸会長が所用で不在なので代わりに挨拶をさせていただく。18 年度の第一次試験は、32,183 名が受験し約 30%の 9,707 名が合格した。本日は第一次試験合格者と JABEE 修了予定者も参加されているが、第二次試験に合格し技術士として活躍することをめざして PDCA を回していってもらいたい。

最近、教育・人材に関することが話題になっているが、技術的パワー・倫理に劣る問題が多発している。このため、企業の教育・OJT はピンチに立たされており、企業は教育・キャリアパスに悩んでいるのが現状である。

技術士の活用、技術士会の活動と第二次試験について紹介したい。技術士会では、正月に「プロフェッション宣言」をした。技術士は技術者の最上位にある国家資格であることから、プロフェッションを謳ってきちんとすることで、社会から認知されそして社会に貢献するために宣言をした。技術士は、社会のそして企業の財産であり、活躍を期待されている。今年が技術士法が制定されて 50 年の節目の年である。そのため、日本技術士会ではイベントを企画しており、その中でのディスカッションをこれからの活動に生かしていこうとしている。技術士の世界は、これからますます広がっていくので、皆さんも研鑽を積んで立派な技術者として活躍させることを願っている。

技術士会での活動は正に異業種との交流であり、企業・年齢・社会的地位を越えて交流が出来る場である。これは、社会のため、企業のため、本人のためになるものであり、本日からプランを立てて、第二次試験に向けて走り出してもらいたい。

2. 【講演】技術士を目指す方々へ

(社)日本技術士会専務理事 竹下 功

【要旨】

技術士の活用、技術士会の活動と第二次試験がどのように行われるかを紹介した。技術士は国家資格の名称資格であることが法律に記載されている。一部は業務独占的になっているが、基本的には業務独占の資格ではない。技術士資格の効用として次の 3 点がある。

- ・ 技術士業務ができる。（事務所を開設することが可能である。）
- ・ 技術的能力が国から認められる。
- ・ 国際的に通用する。

また、他の資格取得に特典があるが、技術士会として、ビジョンを内外に発表するなどして、公的活用の拡大に努力している。東京都は技術士資格を昇進の際のトップランクに位置付けており、このように人事管理にも使われるようになってきている。また、自治体の監査業務等もプロジェクトチーム等で行っている。

技術士会は、会員数約 11,300 人で 7 つの常設委員会、8 つの実行・調査委員会、4 つの特別委員会と 7 つの支部、52 のプロジェクトチームがある。技術士会に入ることによって、人脈が作れる大きなメリットがある。なお、

技術士の登録者は約 70,000 人で、最近では地方自治体の職員の方が増えてきている。

平成 19 年度から第二次試験方法の変更が行われる。今回の変更では、経験論文は口答試験の前に提出をするようになり、択一式の問題も廃止された。応用能力・課題解決能力を問われるようになり、考える試験になる。そのため、試験時間が増えている。また、口答試験は総合技術監理部門を除いて 30 分が 45 分になる。なお、18 年度の試験では、受験番号の記載ミス等で失格した人が約 1,000 人いるので注意をするようにしてもらいたい。これからがんばって、第二次試験にチャレンジをして欲しい。

3. 【講演】修習経路と獲得すべき能力	修習技術者支援実行委員会委員長 坂本 恵一
---------------------	--------------------------

【要旨】

JABEE 認定課程修了生は第一次試験が免除であり、今までに約 35,000 人が修了して、第一次試験合格者と同じくらいの人数になっている。第一次試験合格、JABEE 修了後から第二次試験を受けるまでが修習期間である。第二次試験受験には、次の 3 つの経路がある。

- ・経路 1 技術士補として登録、同部門技術士のもとで 4 年の修習経験。
- ・経路 2 優れた指導技術者のもとで、4 年間の修習を行う。
- ・経路 3 7 年間の実務経験。(修習なしで第二次試験を受ける。)

技術士会では、1 月 1 日に「プロフェッショナル宣言」をしている。プロフェッションとは、高度の学問と知識体系を備えて人々の福利に最善を尽くすことができる人のことで、そのためにも CPD (継続研鑽) が必要となっている。修習技術者とは第一次試験合格者と JABEE 修了生のことで技術士補に登録する資格を有する者のことで、CPD と同様に IPD (初期専門能力開発) を積み重ねていく必要がある。基本的には、IPD と CPD は同じであるが、技術士会では第二次試験合格後 CPD とし、その前を IPD としている。修習技術者にはその期間に習得する必要がある能力として、3 つの能力「専門技術能力」「業務遂行能力」「行動原則」が求められている。IPD のうち、主に学会等の研修会では「専門能力」、技術士会の研修会では「業務遂行能力」「行動原則」に関するものが行われている。技術者として大成することを考えて IPD をしてもらいたい。技術士会の IPD は 50 時間/年を目標としており、PDCA サイクルを回すことで修習をしてもらうように推奨している。また、「技術者倫理」に関しては技術士会の講座が進んでいるので、ぜひ参加して欲しい。

修習技術者支援実行委員会は IPD として、修習技術者向けに年間を通じて研修行事を開催しており、これに参加することが修習に役立つ。そして、皆さんにはスペシャルではなくゼネラリスト(T・型人間)になっていただきたいと考えている。なお修習活動全般について解説したガイドブックを販売しているので、購入の上直ちに修習を開始していただきたい。

4. 【パネル討論】 二次試験合格への挑戦 <ul style="list-style-type: none">・ 実務経験の形成と試験への生かし方・ 技術士会活動や社外活動の生かし方・ 関連資格からのステップアップ など	コーディネータ 青年技術士交流実行委員会 野村 貢 (建設/総合技術監理部門) パネリスト 1. 技術士補登録 4 年 技術士 青木 卓也 (生物工学部門) 2. 実務経験 7 年 技術士 三ツ木 幸子 (建設部門) 3. 修習技術者 長内 沙織 (化学部門) 4. JABEE 認定課程修了生 技術士補 井之本 信 (建設部門)
--	--

パネル討論における発表要旨

○ コーディネータから

パネリストからの発表をして頂き、コーディネータから質問を行う形で、テーマ討論を行う。その後、会場からの質疑を基に討論を行う。

【テーマ：技術士補登録4年(大学院2年間含む)での合格体験】青木 卓也 氏〔青年技術士交流実行委員会委員〕

- 入社後、第1次・2次試験を受験し続けている。
- 建設コンサルタントでは技術士は必須の資格であり、社内的にも責任ある立場（管理職）で業務をするには必要な資格である。
- 第二次試験への取り組みとして、情報収集のために次のようなことを行った。
 1. 技術士取得者に話をよく聞き、HPを徹底的にチェックした。
 2. どの部門で受験するかを決め、その部門の部会に参加した。部会では先輩技術士と話をすることで有益な情報を得ることができた。
 3. 無料の技術士受験セミナーに参加するとともに、合格体験記を読んだ。
 4. 経験論文を書くことを意識して業務を行い、論文は技術士の方に添削していただいた。口答試験の際は、模擬面接を受けた。
 5. 経歴票は論文や口答試験に関係するので、その書き方を多くの技術士の方に聞いて回った。
- 情報収集は早めにそして徹底的に行う必要があり、「受かるまで受ける」ということが重要である。
- 技術士になったことで顧客の信頼度が上がった。技術士会での活動をするようになって数多くの人と出会い、人脈が飛躍的に広がった。また、論文・エッセイの執筆依頼や雑誌の取材を受けるようになった。

【テーマ：実務経験7年での合格体験】三ツ木 幸子 氏

- 既婚で育児中に技術士資格を取得した。
- 資格は裏切らないので、技術士を取りたいという気持ちを持ち続けてあきらめないことが必要である。
- 勉強時間は、定時以降に喫茶店で文献を読んだり（気分転換にもなった）、夏休みを分散して週2日取り、図書館で勉強した。文献については会社で調べるようにした。
- 業務では常識的なことが抜けることがあるので、試験勉強として系統的に勉強することは技術のレベルアップにもつながる。
- 現実に制約されずにまず何をしたいのかを考える。それから現実を考え、どうすれば叶えられるかを考えるようにしている。
- 育児に制約されずに技術者を続けて行きたいと思ってきた。今は死ぬまで技術者で居たいと思っている。女性であることに縛られずに技術者であり続けるには、周囲の理解と協力が重要である。
- 家庭を大切に世の中のことに対処していくことで、倫理観が本当の意味で根付くのではないかと思っている。

【テーマ：修習技術者から技術士を目指して】長内 沙織 氏〔青年技術士交流実行委員会委員補佐〕

- エンジニアとして転職を希望したことがきっかけで技術士を目指すようになった。
- 「化学部門」で第一次試験に合格をしたが、他部門で第二次試験を受けようと考えて地元の神奈川県技術士会に相談をしたところ、「部門を決めなさい。」とアドバイスされて「環境部門」で受験することを決めた。
- 技術士資格取得はゴールではなくスタートであることを常に頭に入れて業務を行っている。
- 上司の技術士の方とのコミュニケーションを大切にして、モチベーションの維持を図っている。
- 様々なことに興味を持って積極的に挑戦することが必要で、そこから得られるものは多いと感じている。

【テーマ：JABEE 認定課程修了生から技術士を目指して】井之本 信 氏

- 大学受験のときにはJABEEも技術士も知らなかった。入学後に第一次試験受験を勧められ、そして2年生のときからJABEE認定への取り組みが始まった。

- 学内に「学習・教育目標」が掲示され、「工学倫理」が必須科目となった。
- 成績判定基準が明確になり、単位取得ハードルが上がって苦勞をしたが、今の自分に対してはプラスになっている。
- 「経路1」で第二次試験受験を考えているが、現在は仕事を覚えるのに精一杯で試験対策は行っていない。これからは、アンテナを張って実務の中で勉強をしていきたいと思っている。

パネリストからの提言

【テーマ：モチベーションの維持の方法】

青木氏；社内の環境として技術士が、多く信頼を得て仕事をしているのを間近で見ている。また昇進・昇給にも結びついている。技術士会での活動に関わりを持ち、部会等に参加することで技術士を身近に感じるようにした。

三ツ木氏；いつまでも技術者で居たいと思っている。みんなと違うことに興味を持ち、自分で調べて勉強していくことが必要と考えている。

長内氏；上司の技術士の方に受験することを伝えている。技術士会での活動がモチベーションの維持に結びついている。

井之本氏；建設コンサルタントでは技術士資格がないと生きていけない。同期と切磋琢磨して学ぼうという意識を持ち続けたい。

【テーマ：キャリアステップとして「ON JOB」と「OFF JOB」をどのように位置付けたか、位置付けているか】

青木氏；部門の試験内容を徹底的に調べて論文を書くつもりで業務をした。人に説明することを意識して、技術士がどのように説明しているかを吸収した。また、技術士試験に役立つ資格試験を積極的に受けた。講演会・講習会に参加し、文献を読むようにした。

三ツ木氏；よい仕事をする事を心掛けた。文献をコピーし、講習会にはできるだけ参加するようにした。そして、技術は現場からと考えているので、意識的に研究部門でない部署を希望した。また、一つの事が終わったら、仕事だけでなく講習会なども論文（文章）にするようにした。

長内氏；報告書なども論文につながるように考えて書いている。IPDの行事や技術士会の委員会活動に参加している。

井之本氏；上司・先輩から学ぼうと思っている。社内で開催されている勉強に参加しているが、そのほかにも色々な場に参加して行こうと考えている。

【テーマ：技術士である自分をどう感じ、活かしているのか。またどのような技術士になりたいか】

青木氏；技術士になったことで自分で仕事を作り出せるようになり、信頼・責任が増した。幅広い、今までとは違う業務に携わることができるようになった。また、他部門の方と対等に付き合い、話ができるようになった。論文・エッセイの依頼が来るようになったり、海外の技術者と付き合いやすくなり世界が広がったと感じている。税理士・弁理士の方から「先生」と呼ばれることがある。

三ツ木氏；技術士でなければ、この業界に居られなかった。技術士であるから夢を見てられる。プロポーザル対応では、技術士が居ないと不利であり、一番メリットを感じている。

長内氏；上司や他の技術士の方の良いところを自分自身のプラスアルファにしていきたい。

井之本氏；このようなことを考えたことがなかった。業務を引っ張り、そして信頼される技術者になりたい。

質疑応答

【会場：機械部門 派遣で機械設計に携わっているので責任ある立場に立てない。派遣での専門能力向上、モチベーション維持の方法をどのようにすればよいか。】

青木氏；自分から主体的に仕事をしていくことが必要ではないか。

三ツ木氏；私は色々な人に支えられてきた。色々な扉をたたき事で道が拓けていくのではないかと思う。

長内氏；きっかけが必要ではないか。自分からチャンスを作っていくことで広がっていくのではないか。

野村氏；技術者としてどうありたいかがポイントと考える。

【会場：経理部門 技術士補登録をしたいが社内に同一部門の技術士がいない。このような場合、どうすればよいのか。】

青木氏；他の企業や独立した技術士の方を指導技術士とすることも可能である。指導をどのように受けるかを努力すれば可能ではないか。

長内氏；；私も同じことで地元の県技術士会に相談したが、現実的には難しいだろうとのことであった。技術士補に登録しなくても「経路2」で第二次試験は受験できる。

野村氏；；疑問に思うことがあれば、技術士会に問い合わせるのが良い。

竹下専務理事；指導技術士を探している時は、技術士会に相談してもらいたい。自分の企業以外の方を指導技術士にして技術士補登録をしている方はかなりいる。

【会場：化学部門 第二次試験をクリアーする方法について示唆に富んだ話を聞きたい。】

野村氏；「試験に受かる人間になりなさい」が基本ではないかと思う。

青木氏；過去問を見たり、白書や受験部門の部会が監修している本を読むと良い。春先までの学会誌のトピックを集めて理解することも重要である。それと、HPの検索や部会に出ることも必要である。

三ツ木氏；今の学生がどのような教科書で勉強しているのか、教科書を見てみると良い。HPの検索はぜひ行う必要があると思う。

【会場：電子部門 経歴書の書き方にポイントを知りたい。また、化学部門受けようと思っているが、資格取得する必要性が感じられない。どのようにして部門を決めればよいのか。】

青木氏；願書を出すことから試験が始まっている。経歴書と論文は関係しているし、口答試験でも経歴について聞かれる。経歴の語尾を「～の業務」ではなく、法律の定義にある「～の研究」のようにすべきである。また、経歴の書き方によっては、業務経歴として認められない場合もある。

長内氏；自分がしたいと思う業務の部門を受けるのがよい。今から、部門を絞ることはないのではないか。

北本氏(化学部会)；「化学部門」の技術士が活躍できる場が広がりつつあるので、是非「化学」で受験してもらいたい。

【会場：電子部門 実務経験に大学院での経験は入るのか。】

青木氏；大丈夫である。2年間に限って経験に入れることができる。

【会場：機械部門 技術士補に登録したら4年間は第二次試験を受けられないのか。】

坂本委員長；実務経験が7年あれば、技術士補に登録をしても第二次試験を受けることはできる。

【会場：建設部門 提出する体験論文はワープロでもよいのか。字数は3,000字でよいのか。】

野村氏；3,000字は間違いはない。文書には手書きとは書かれていない。

坂本委員長；何らかの形で出せばよい。ワープロでもよいのではないか。

竹下専務理事；手書き、ワープロとも書かれていない。受験案内の中で、どのようにして提出するのかをはっきりさせたい。

【会場：機械部門 仕事内容が変わって、経歴にブランクが生じる場合、どのようにすればよいのか。】

野村氏；ブランクは関係ない。実務経験で7年あれば、受験資格はある。

【交流会】

修習技術者支援実行委員会奥田副委員長から開会の挨拶があり、(社)日本技術士会神戸副会長からの祝辞と乾杯のもと先輩技術士との交流の輪が会場内に広がった。部会等の紹介や懇談を通じて合格部門にとどまらず、部門を超えた活発な交流が行われ、青年技術士交流実行委員会時合委員長の閉会の挨拶で有意義な時間の幕を閉じた。